SONY

4-295-914-**02**(1)

デジタルサラウンドヘッドホンシステム

リファレンスガイド

お買い上げいただき、ありがとうございます。

電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

MDR-DS7500

目次

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この「安全のために」の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

1年に一度は、ほこりがたまっていないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

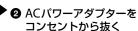
故障したら使わない

動作がおかしくなったり、破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーの修理相談窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら

❶ **電源を切る**

❷ **ACパワーアダプターをコンセントから抜く**

❸ **お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・漏液・発熱・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・発熱・発火・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、漏液・破裂・発熱・発火・感電などによりやけどやけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

接触禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

火災
感電

下記の注意事項を守らないと**火災・感電・発熱・発火**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

指定以外のACパワーアダプターを使わない

禁止

本機を使用するとき、またはヘッドホンを充電するときは、必ず指定のACパワーアダプターを使用してください。
破裂や電池の液漏れ、過熱などにより、火災やけが、周囲の汚損の原因となります。

火の中に入れない

禁止

分解しない

分解禁止

故障や感電の原因となります。内部の点検および修理はソニーの相談窓口（裏表紙）またはお買い上げ店、ソニーの修理相談窓口にご依頼ください。

火のそばや炎天下などで充電したり放置しない

禁止

火災
感電

下記の注意を守らないと、**火災・発熱・発火・感電**により**やけど**や**大けが**の原因となります。

道路交通法に従って安全運転する

運転者は道路交通法に従う義務があります。前方注意をおこたるなど、安全運転に反する行為は違法であり、事故やけがの原因となります。

禁止

- 運転中は本機を使用しない。
- 運転中以外でも、踏切や駅のホーム、車の通る道、工事現場など、周囲の音が聞こえないと危険な場所ではヘッドホンを使わないでください。

下記の注意を守らないと、**火災・発熱・発火・感電**により**やけどや大けが**の原因となります。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに使用を中止し、ACパワーアダプターをコンセントから抜いて、お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口にご相談ください。

この製品を海外で使用しない

ACパワーアダプターは、日本国内専用です。交流100 Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災·感電の原因となります。

雷が鳴りだしたら、ACパワーアダプターに触れない

感電の原因となります。

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手でACパワーアダプターをさわらない

感電の原因となることがあります。

下記の注意を守らないと、**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

大音量で長時間続けて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

はじめからボリュームを上げすぎない

突然大きな音が出て耳をいためることがあります。ボリュームは徐々に上げましょう。

特に、CDやDMP機器など、雑音の少ないデジタル機器を聞くときにはご注意ください。

通電中のACパワーアダプターに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

本体やACパワーアダプターを布団などでおおった状態で使わない

熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

かゆみなど違和感があったら使わない

使用中、肌に合わないと感じたときは使用を中止して医師またはお買い上げ店、ソニーの修理相談窓口にご相談ください。

長時間使用しないときはACパワーアダプターを抜く

長時間使用しないときは、安全のためACパワーアダプターをコンセントから抜いてください。

お手入れの際、ACパワーアダプターを抜く

ACパワーアダプターを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

本機は、国内専用です

海外では国によって電波使用制限があるため、本機を使用した場合、罰せられることがあります。

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱・発火・誤飲による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険 充電式電池が液漏れしたとき

充電式電池の液が漏れたときは素手で液をさわらない

液が本体内部に残ることがあるため、ソニーの相談窓口（裏表紙）またはソニーの修理相談窓口にご相談ください。

液が目に入ったときは、失明の原因になることがあるので目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

液が身体や衣服についたときも、やけどやけがの原因になるので、すぐにきれいな水で洗い流し、皮膚に炎症やけがの症状があるときには医師に相談してください。

⚠危険 充電式電池について

- 指定されたACパワーアダプター以外で充電しない。
- 火の中に入れない。分解、加熱しない。
- 火のそばや直射日光のあたるところ・炎天下の車中など、高温の場所で使用・保管しない。
- 外装のビニールチューブをはがしたり傷つけたりしない。
- 液漏れした電池は使わない。

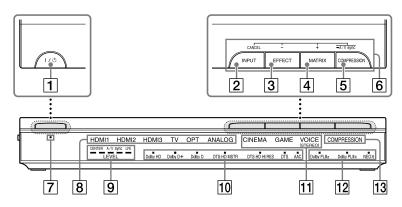
日本国内での充電式電池の廃棄について

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については
一般社団法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html
を参照してください。

商標について

- Virtualphones Technologyはソニー株式会社の商標または、登録商標です。
- 本機はドルビー *デジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（Ⅱx、Ⅱz）、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHDデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS**（DTS-ESおよびDTS 96/24）デコーダー、DTS-HDデコーダーを搭載しています。
- 本機は、High-Definition Multimedia Interface（HDMI®）技術を搭載しています。
  HDMI、HDMI ロゴ、及び High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。
- "ブラビアリンク" および "BRAVIA Link" ロゴはソニー株式会社の登録商標です。
- "x.v.Color" および "x.v.Color" ロゴは、ソニー株式会社の商標です。
- "プレイステーション® " は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AACロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** 米国特許番号 5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567、その他米国および米国外で特許申請中の実施権に基づき製造されています。
DTS は登録商標です。またDTS ロゴ、シンボル、DTS-HD およびDTS-HD Master Audio はDTS 社の商標です。

各部のなまえ

プロセッサー上面／前面

1 I/⏻（電源）スイッチ
（26ページ）

2 INPUT（インプット）ボタン
（26ページ）

3 EFFECT（エフェクト）ボタン
（29、33ページ）

4 MATRIX（マトリクス）ボタン
（34ページ）

5 COMPRESSION（コンプレッション）ボタン
（35ページ）

6 A/V sync（エーブイ シンク）ボタン
（36ページ）

7 I/⏻（電源）ランプ
（26ページ）

8 INPUT（インプット）ランプ
（26ページ）

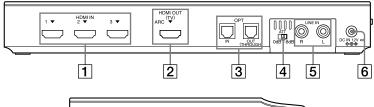
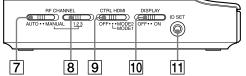
9 CENTER（センター） / A/V sync（エーブイ シンク） / LFE（エルエフイー） LEVEL（レベル）ランプ
（36、37ページ）

10 DECODE（デコード） MODE（モード）ランプ
（27、32ページ）

11 EFFECT（エフェクト）ランプ
（29、33ページ）

12 MATRIX（マトリクス）ランプ
（34ページ）

13 COMPRESSION（コンプレッション）ランプ
（35ページ）

プロセッサー後面／側面

エイチディーエムアイ イン
1 **HDMI IN 1/2/3端子**
HDMI入力端子です。
（15ページ）

エイチディーエムアイ アウト テレビ
2 **HDMI OUT（TV）端子**
HDMI出力端子です。ARC（オーディオリターンチャンネル）に対応しています。
（14、15ページ）

オプティカル イン アウト スルー
3 **OPT IN / OUT（THROUGH）端子**
光デジタル音声入力／出力端子です。
（21、23ページ）

アッテネーター
4 **ATTスイッチ**
（22ページ）

ライン イン
5 **LINE IN（L / R）端子**
アナログ音声入力端子です。
（21、24ページ）

ディーシー イン
6 **電源 DC IN 12V端子**
（17ページ）

アールエフ チャンネル オート マニュアル
7 **RF CHANNEL AUTO/MANUALスイッチ**
（25ページ）

アールエフ チャンネル
8 **RF CHANNEL 1/2/3スイッチ**
（25ページ）

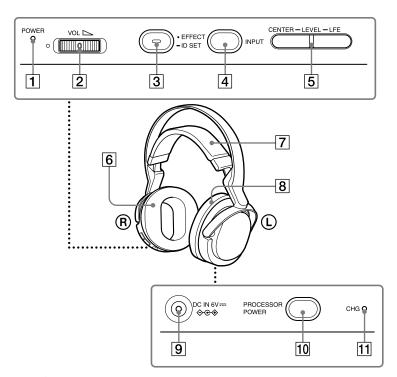
コントロール エイチディーエムアイ
9 **CTRL HDMIスイッチ**
（13ページ）

ディスプレイ
10 **DISPLAYスイッチ**
（38ページ）

アイディーセット
11 **ID SETボタン**
（40ページ）

ヘッドホン

1 POWER(パワー)ランプ
(12、28ページ)

2 VOL(ボリューム)つまみ
(28ページ)

3 EFFECT(エフェクト) / ID SET(アイディーセット)ボタン
(37、40ページ)

4 INPUT(インプット)ボタン
(38ページ)

5 CENTER(センター) / LFE(エルエフイー) LEVEL(レベル)ボタン
(37ページ)

6 イヤーパッド(右)
(41ページ)

7 フリーアジャストバンド
(12、28ページ)

8 イヤーパッド(左)
(41ページ)

9 電源 DC IN 6V(ディーシーイン)端子
(11ページ)

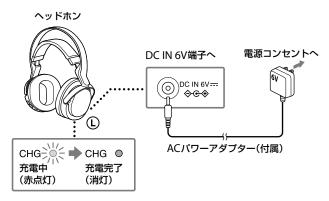
10 PROCESSOR(プロセッサー) POWER(パワー)ボタン
(37ページ)

11 CHG(チャージ)ランプ
(11ページ)

ヘッドホンを充電する

本システムのヘッドホンはリチウムイオン充電式電池を内蔵しています。充電してからお使いください。

1 **付属のACパワーアダプターをヘッドホンと電源コンセントにつなぐ。**
ヘッドホンのCHGランプが点灯して、充電が始まります。

2 **CHGランプが消灯したら、ACパワーアダプターをはずす。**
つないだままではヘッドホンから音が出ません。

ご注意

- 充電は5℃～35℃の環境で行ってください。この範囲を超えるとCHGランプが点滅し、充電できないことがあります。
- 本機の電源が入っているときに充電を開始すると、本機の電源は自動的に切れます。
- 充電中に本機の電源を入れることはできません。

充電時間の目安と持続時間

充電時間	持続時間*[1]
約3時間*[2]	約18時間*[3]
約30分*[4]	約3時間*[3]

*[1] 1 kHz,1 mW+1 mW出力時
*[2] 電池残量がない状態から、満充電するのにかかる時間
*[3] 周囲の温度や使用状態により、上記の持続時間と異なる場合があります。
*[4] 電池残量がない状態からの時間

充電式電池の残量を確認する

フリーアジャストバンドを引き、右ヘッドホンのPOWERランプが緑色に点灯すれば使用できます。POWERランプが点灯しないときや、ランプが暗かったり、音が途切れたりするときは、充電してください。

ご注意

- 長い間使わなかったときは、充電式電池の持続時間が短くなることがあります。何回か充放電を繰り返すと、充分に充電できるようになります。
- 1年以上の長期にわたって保存する場合は、過放電防止のため、年1回程度の充電を行ってください。
- 充電式電池の持続時間が通常の半分ぐらいに低下した場合は、充電式電池の寿命と考えられます。充電式電池の交換については、お近くのソニーの修理相談窓口にご相談ください。

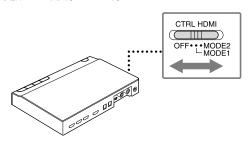
HDMI端子のある機器をつなぐ

HDMI機器制御機能（"ブラビアリンク"）に対応しているテレビなどの製品と本機をHDMIケーブルでつなぐと、電源の入／切や入力切換など、自動で機器間の連動操作ができます。詳しくは、「HDMI機器を便利に使う」（31ページ）をご覧ください。
HDMI機器を有効に使うには、機器や使用目的にあわせて、本機と正しく接続･設定する必要があります。以下をお読みになり、ご自分の環境に適した方法でつないでください。

1.CTRL HDMIスイッチを切り換える

つなぐ機器の種類やHDMI機器制御をするかどうかにあわせて設定します。プロセッサーにACパワーアダプターをつなぐ前に切り換えてください。

ご注意

ACパワーアダプターをつないでからCTRL HDMIスイッチを切り換えたときは、ACパワーアダプターを一度抜いて、5秒待ってから再びつないでください。

CTRL HDMI スイッチの位置	本機のHDMI機器制御のはたらきと適した接続機器
MODE1（出荷時の設定）	本機のHDMI機器制御を最も有効にします。HDMI機器制御対応のAVアンプ（シアターラック）をつながない場合に選んでください。
MODE2	本機のHDMI機器制御を有効にします（一部制限あり、31ページ）。HDMIセレクターとして働きます。HDMI機器制御対応のAVアンプ（シアターラック）と本機をつなぐ場合に選んでください。
OFF	本機のHDMI機器制御は動作しません。

2.機器をつなぐ

お使いの機器にあわせて、接続例1 ～ 3の中から選んでください。

本機と一緒にHDMI機器制御対応のAVアンプ(シアターラック)をお使いですか?

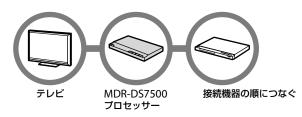
はい ↓　　　　　　　　　　　　　　↓いいえ

接続例2(推奨)(16ページ)
接続例3(18ページ)

接続例1(推奨)(14ページ)

ARC対応テレビの音声を楽しむには

本機はARC(オーディオリターンチャンネル)に対応しています。ARCとは音声信号の双方向伝達機能で、AV機器からテレビへ出力する音声・映像信号と、逆にテレビからAV機器へ入力される音声信号とを1本のHDMIケーブルで伝送する機能です。対応機器どうしなら、HDMIケーブル1本のみでつないだテレビの音声を、本機やAVアンプ(シアターラック)などで聞くことができます。
ARC対応のHDMI端子には「ARC」と記載されています。
ARC対応のテレビをお使いの場合、本機で機能を有効にするには下記の接続例1の方法でつないでください。ARC対応AVアンプをお使いの場合は、接続例2の方法でつないでください(16ページ)。

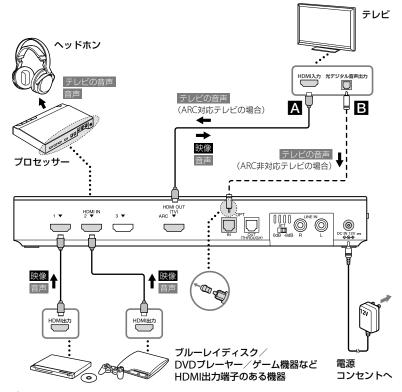
接続例1(推奨)

本機のHDMI機器制御が最も有効にはたらく接続方法です。

CTRL HDMIスイッチが「MODE1」になっているかあらかじめ確認してください(13ページ)。HDMI機器制御を無効にする場合はOFFに切り換えてください。

ご注意

ACパワーアダプターをつないでからCTRL HDMIスイッチを切り換えたときは、ACパワーアダプターを一度抜いて、5秒待ってから再びつないでください。

使用するケーブル

HDMIケーブル（別売）
光デジタル接続ケーブル（1本付属）

ヒント

- ARC対応のテレビの音声を本機で楽しむには
  - 「ARC」と表記されているテレビのHDMI入力端子とプロセッサーのHDMI OUT（TV）端子をHDMIケーブルでつなぐ。（上図のA）
    光デジタル接続ケーブル（上図のB）は必要ありません。
- ARC非対応のテレビの音声を本機で楽しむには
  - テレビのHDMI入力端子とプロセッサーのHDMI OUT（TV）端子をHDMIケーブルでつなぐ。（上図のA）
  - テレビの光デジタル音声出力端子と、プロセッサーのOPT IN端子を光デジタル接続ケーブルでつなぐ。（上図のB）

（次のページへつづく）

接続例2(推奨)

テレビと本機のあいだにAVアンプをつなぐ方法です。AVアンプを除いて、本機で音声を聞きたいHDMI機器(ブルーレイディスクプレーヤーなど)が、合計3台以下の場合におすすめの接続方法です。

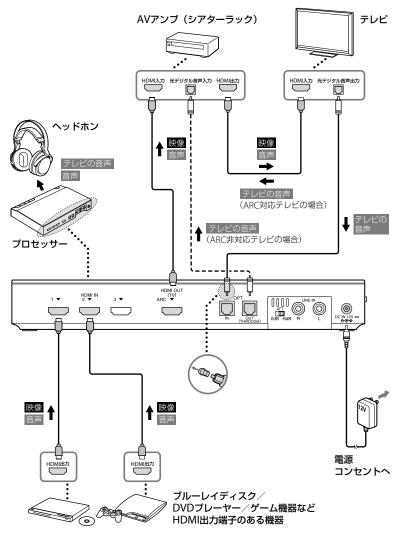
CTRL HDMIスイッチが「MODE2」になっているかあらかじめ確認してください(13ページ)。HDMI機器制御を無効にする場合はOFFに切り換えてください。

ご注意

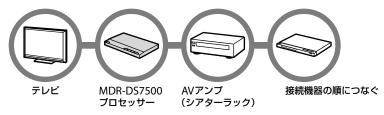
- ACパワーアダプターをつないでからCTRL HDMIスイッチを切り換えたときは、ACパワーアダプターを一度抜いて、5秒待ってから再びつないでください。
- CTRL HDMIスイッチの「MODE2」はARCに対応しておりません。本機でテレビの音声を聞くときは、ARC対応テレビであっても、光デジタル接続ケーブルで本機とテレビをつないでください。

使用するケーブル

HDMIケーブル(別売)
光デジタル接続ケーブル(1本付属)

ヒント

お使いのAVアンプとテレビがARCに対応している場合は、本機とAVアンプを光デジタル接続ケーブルでつなぐ必要はありません。

（次のページへつづく）

接続例3

再生機器と本機とのあいだにAVアンプをつなぐ方法です。
HDMI伝送では、信号を受信する側の機器が対応可能な映像／音声フォーマットを示して、送信側がそれに応じたフォーマットで伝送する仕組みのため、この場合はAVアンプが対応可能な音声フォーマットのみが本機に伝送されます。そのため、本機で対応可能な種類よりも音声フォーマットが制限される可能性があります。本機の能力を最大限発揮できなくなることがありますのでご注意ください。

CTRL HDMIスイッチが「MODE2」になっているかあらかじめ確認してください（13ページ）。HDMI機器制御を無効にする場合はOFFに切り換えてください。

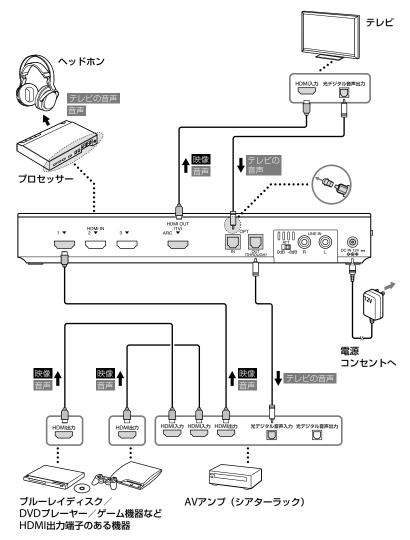
ご注意

- ACパワーアダプターをつないでからCTRL HDMIスイッチを切り換えたときは、ACパワーアダプターを一度抜いて、5秒待ってから再びつないでください。
- CTRL HDMIスイッチの「MODE2」はARCに対応しておりません。本機でテレビの音声を聞くときは、ARC対応テレビであっても、光デジタル接続ケーブルで本機とテレビをつないでください。

使用するケーブル

HDMIケーブル（別売）
光デジタル接続ケーブル（1本付属）

ブルーレイディスク／
DVDプレーヤー／ゲーム機器など
HDMI出力端子のある機器

AVアンプ（シアターラック）

ご注意

- 本機で視聴できる音声フォーマットは、お使いのAVアンプの性能に影響されます。
- AVアンプから音声信号が出力されるようになっているか、あらかじめ設定を確認してください。

HDMI機器の接続に関するご注意

- High Speed HDMIケーブルをご利用ください。Standard HDMIケーブルの場合、1080pやDeep Color、3Dの映像が正しく表示できない場合があります。
- 認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをおすすめします。
- HDMIケーブルでつないだ機器の映像がきれいに映らなかったり、音が出ないときは、接続機器側の設定を確認してください。
- HDMI端子からの音声信号（サンプリング周波数、ビット長など）は、接続機器により制限されることがあります。
- 接続機器からの音声出力信号のチャンネル数やサンプリング周波数が切り換えられた場合、音声が途切れることがあります。
- 接続機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI OUT（TV）端子の映像や音声が乱れたり再生できないことがあります。このような場合は、接続機器の仕様を確認してください。
- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。
- 本機の入力をHDMI以外に切り換えても、HDMI IN端子につないだ機器の映像がHDMI OUT(TV)端子から出力されます。
- 本機はDeep Color、"x.v.Color"および3D伝送に対応しています。
- 3D映像を楽しむには、3D表示に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクプレーヤー、"プレイステーション3"など）と本機をHDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のブルーレイディスクなどを再生してください。

HDMI端子のない機器をつなぐ

CDプレーヤーなど*光デジタル出力端子のある機器は、光デジタル接続ケーブルを使ってプロセッサーにつないでください。
また、ビデオデッキやテレビなどのアナログ機器の場合は、別売りのオーディオ用接続コードを使ってプロセッサーにつないでください。

* パソコンの光デジタル出力端子への接続は動作保証いたしません。

ヒント

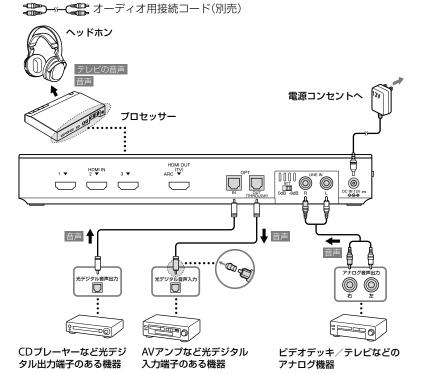
プロセッサーのOPT OUT(THROUGH)端子にお手持ちのAVアンプなどをつなぐと、OPT IN端子につないだ機器から入力された信号を、プロセッサーを通じてそのままAVアンプなどに出力できます(光パススルー機能)。

使用するケーブル

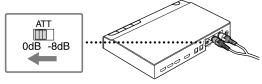
光デジタル接続ケーブル(1本付属)
オーディオ用接続コード(別売)

CDプレーヤーなど光デジタル出力端子のある機器

AVアンプなど光デジタル入力端子のある機器

ビデオデッキ/テレビなどのアナログ機器

(次のページへつづく)

アナログ機器の音声が小さいときは

プロセッサー後面にあるATTスイッチを「0dB」に切り換えてお使いください。

位置	接続している機器
0dB	テレビやポータブル機器など、出力レベルの低いもの
–8dB（出荷時の設定）	その他の機器

ご注意

- ATTスイッチは、必ず音量を下げてから切り換えてください。
- アナログ機器の音声がひずむ（と同時にノイズが発生する）ときは、ATTスイッチを「–8dB」に切り換えてください。

接続に関するご注意

OPT端子につなぐときは

- 光デジタル接続ケーブルは非常に精密に作られています。プラグを抜き差しするときは丁寧にお取り扱いください。
- プロセッサーのOPT IN端子につないだ機器側で光デジタル出力の設定が必要な場合があります。接続機器の取扱説明書をご覧ください。
- プロセッサーにACパワーアダプターをつながないと、OPT OUT（THROUGH）端子から信号は出力されません。

光ミニデジタル出力端子の機器をつなぐ場合は

ポータブル機器などの光ミニデジタル出力端子からOPT IN端子へつなぐ場合は、別売りの接続コードPOC-5AB（光ミニプラグ↔光角型プラグ）などをお使いください。

複数の光デジタル機器をつなぐ場合は

別売りの光デジタルセレクター SB-RX100P（入力4系統、出力3系統）をお使いください。

光デジタル接続ケーブルの取り扱いについて

- 光デジタル接続ケーブルには落下物などによる衝撃を与えないでください。
- 光デジタル接続ケーブルの抜き差しは、プラグを持って、丁寧に行ってください。
- 光デジタル接続ケーブルの先端が汚れると性能が低下しますので、汚さないようにしてください。
- 保管の際は、プラグ先端にキャップを付けて、光デジタル接続ケーブルを折り曲げすぎないようにしてください。

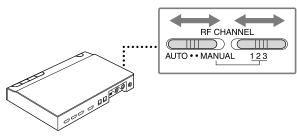
（次のページへつづく）

LINE IN端子にステレオミニジャックの機器をつなぐときは

ヘッドホン端子などのステレオミニジャックからプロセッサーのLINE IN(L/R)端子へつなぐ場合は、別売りのオーディオ用接続コードRK-G129(ステレオミニプラグ↔ピンプラグ×2)などをお使いください。

この場合、接続機器のボリュームを中ぐらいにしてお使いください。接続機器のボリュームが低く設定されていると、ノイズが発生することがあります。
その他の別売りオーディオ用接続コードについては、「主な仕様: 推奨アクセサリー」(52ページ)をご覧ください。

周波数チャンネルを設定する

本システムは、2.4 GHz帯の無線周波数に含まれる3つのチャンネルのなかから、いずれかを使用します。RF CHANNEL AUTO/MANUALスイッチとRF CHANNEL 1/2/3スイッチで、使用する周波数チャンネルの設定を切り換えてください。

RF CHANNEL AUTO/MANUAL スイッチの位置	使用する周波数チャンネル
AUTO（出荷時の設定）	最適なチャンネルを自動的に検出します。RF CHANNEL 1/2/3スイッチの位置は、動作に影響しません。
MANUAL	RF CHANNEL 1/2/3スイッチで切り換えたチャンネル（1/2/3）に固定します。

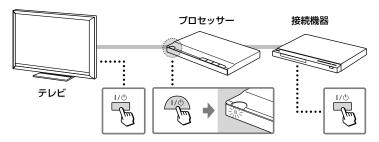
ヒント

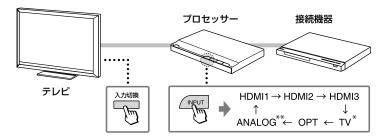
音切れするなど通信が不安定な場合は、スイッチをAUTOではなくMANUALに切り換えて、1/2/3スイッチを動かして適切なチャンネルを探してください。

接続機器の音声を聞く

操作の前に、必ず「HDMI端子のある機器をつなぐ」または「HDMI端子のない機器をつなぐ」（13、21ページ）をご覧のうえ、正しくつないでください。
HDMI機器制御に対応した機器なら、下記よりさらに簡単な手順でお使いになれます。詳しくは「HDMI機器を便利に使う」（31ページ）をご覧ください。

1. 機器の電源を入れる

❶プロセッサーのI/⏻（電源）スイッチを押して電源を入れる。
❷音声を聞きたい機器の電源を入れる。また、映像を見るときや、テレビの音声を聞くときはテレビの電源も入れる。

2. プロセッサーとテレビの入力を切り換える

❶プロセッサーのINPUTボタンを繰り返し押して、音声を聞きたい機器をつないだ入力を選ぶ。
❷テレビをつないでいる場合は、テレビの入力を本機に切り換える 。

* プロセッサーのCTRL HDMIスイッチが「MODE2」または「OFF」のときは選べません。
** LINE IN（L/R）端子へつないだ機器に切り換わります。

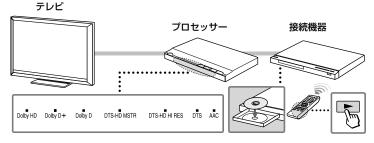
テレビの音声を聞くときのご注意

- お使いのテレビがARC対応の場合は、本機の入力を「TV」に切り換えてください。
- ARCに対応していないテレビの場合は、光デジタル接続ケーブルでプロセッサーとテレビをつないで、本機の入力を「OPT」に切り換えてください。「TV」に切り換えてもテレビの音声は聞こえません。また、本機の設定を変えるとより快適に使えます。「OPT入力でテレビ音声を楽しむための便利な機能」(30ページ)をご覧ください。

どちらの場合も、テレビ側の音声出力設定も確認してください。

3. 聞きたい機器で再生を始める

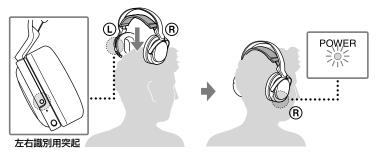
❶再生前に接続機器の音声出力設定を確認する。
音声がマルチチャンネル音声フォーマット(Dolby Digital、DTSなど)で出力されるように、あらかじめ接続機器を設定してください(32ページ)。詳しくは、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

❷再生を始める。
入力された音声信号にしたがってプロセッサーのDECODE MODEランプが点灯します(32ページ)。希望の音声フォーマットになっているか確認してください。

機器を再生するときのご注意

- ブルーレイディスクやDVDの映画などの場合、機器が次の状態では本機のDECODE MODEランプが正確に点灯しないことがあります。「再生」状態にして確認してください。
  - 早送りや早戻し中
  - 本編以外のメニュー画面などの表示中
- 機器を再生するとテレビに映像は出ますが、音声はテレビから出力されません。
- 機器とプロセッサーをHDMI接続している場合は、SACDやDVDオーディオディスクの音声を本機で再生できません。
- 入力された音声フォーマットがリニアPCM 2ch/5.1ch/7.1chの場合は、プロセッサーのDECODE MODEランプが点灯しません。

(次のページへつづく)

4. ヘッドホンを装着する

右イヤーパッドを右耳に、左イヤーパッドを左耳にあわせ、フリーアジャストバンドが頭の上に付くようにヘッドホンを垂直にかけます。ヘッドホンをかけると、自動的に電源が入り、右イヤーパッドのPOWERランプが緑色に点灯します。（オートパワーオン機能）

ご注意

ヘッドホンは、電波が届く範囲（39ページ）でお使いください。

ヒント

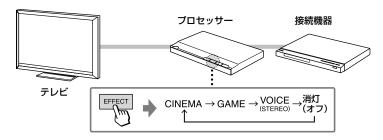
- プロセッサーがスタンバイ状態のときにヘッドホンを装着すると、自動的にプロセッサーの電源も入ります。
- 音切れするなど通信が不安定な場合は、プロセッサーのRF CHANNEL AUTO/MANUALスイッチをMANUALに切り換えて、1/2/3スイッチを動かして適切なチャンネルを探してください（25ページ）。

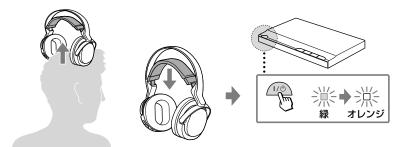
5. 音量を調節する

ご注意

映画の音声を聞く場合、静かなシーンで音量を上げすぎて、急な爆発シーンなどで耳を痛めないようご注意ください。

6. 好みの音場モードを選ぶ

設定について詳しくは「音場モードを切り換える（EFFECTボタン）」（33ページ）をご覧ください。

お使いになったあとは

❶ヘッドホンをはずす。
約1秒後、自動的にヘッドホンの電源が切れます。（オートパワーオフ機能）
❷プロセッサーのI/⏻（電源）スイッチを押す。
I/⏻（電源）ランプの色が緑からオレンジ色に変わって本機がスタンバイ状態になり、テレビから機器の音声が出ます。

ご注意

- ヘッドホンをはずす前にプロセッサーからACパワーアダプターをはずすと、雑音が入ることがあります。
- ヘッドホンを使わないときは、オートパワーオン機能が働かないように、ヘッドホンのフリーアジャストバンドが下がった状態で保管してください。

（次のページへつづく）

本機の節電機能について

長く使わないときや一時的に使わないときなど、必要に応じて、消費電力を抑えることができます。

- 次の場合、プロセッサーがスタンバイ状態に切り換わります。
  - ヘッドホンの PROCESSOR POWERボタンを押した場合
  - ヘッドホンをはずしたまま5分間たった場合
- 次の場合、プロセッサーの電源が切れ、すべてのランプ表示が消灯します。このときHDMI出力信号の伝送も止まります。また、ヘッドホンのPROCESSOR POWERボタンからは電源を入れることができません。プロセッサーの**I**/⏻(電源)スイッチまたはHDMI機器制御による電源オンのみ有効です。
  - プロセッサーが電源オンまたはスタンバイの状態で、**I**/⏻(電源)スイッチを3秒間押した場合
  - プロセッサーとヘッドホンが電源オンの状態で、本機の操作を行わず、さらに選ばれている入力に音声が30分以上入力されない場合

OPT入力でテレビ音声を楽しむための便利な機能

CTRL HDMIスイッチが「MODE1」のときに、テレビ側の操作でBSデジタル→地上デジタルなどのように放送を切り換えると、機器連動によって通常本機の入力は自動的に「TV」に切り換わります。しかし、テレビがARC非対応の場合など、本機の「OPT」入力でテレビの音声を聞いているときでも同様に「TV」に切り換わるため、そのままではテレビの音声を聞くことができません。
そのような場合は、「OPT」入力を「TV」入力として設定して、入力の連動切換に対応することができます。

本機のINPUTボタンで「OPT」を選んだあと、再びINPUTボタンを5秒間押したままにする。
INPUTランプ表示が「OPT」から「TV OPT」に変わります。
「OPT」入力を選ぶたびに、「TV」と「OPT」両方のINPUTランプが点灯するようになります。元に戻すには、もう一度同じ操作をしてください。

ヒント
この機能はCTRL HDMIスイッチが「MODE2」のときにも有効です。

HDMI機器を便利に使う

HDMI機器制御機能（“ブラビアリンク”）に対応しているソニー製品をHDMIケーブルでつなぐと、下記のように機器を連動操作できます。

“ブラビアリンク”は、HDMI機器制御を搭載したソニーのテレビやブルーレイディスクレコーダー、AVアンプ（シアターラック）などが対応しています。
HDMI機器制御は、CEC（Consumer Electronics Control）で使用されている、HDMI（High-Definition Multimedia Interface）のための相互制御機能の規格です。

ブルーレイディスクなど接続機器を楽しむ（ワンタッチプレイ）

（CTRL HDMIスイッチが「MODE1」/「MODE2」の場合に有効）
接続機器を再生すると、テレビの電源が自動的に入り、本機はスタンバイ状態のまま、テレビから音声と映像が出力されます。またCTRL HDMIスイッチが「MODE1」のときは、テレビのスピーカー設定がオーディオシステムに設定されていれば、本機の電源が入って本機から機器の音声が出ます。

ご注意

テレビによっては、コンテンツの開始部分が出力されないことがあります。

テレビの音声を本機で楽しむ（システムオーディオコントロール）

（CTRL HDMIスイッチが「MODE1」の場合に有効）

- テレビのスピーカー設定がオーディオシステムに設定されていれば、本機の電源を入れると本機からテレビの音声が出ます。
- 本機をスタンバイにすると、テレビのスピーカーから音声が出ます。
- 本機の電源が入っているときに、音声出力をテレビのスピーカーに切り換えると、本機から音が出なくなります。

詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

テレビと本機、接続機器の電源を切る（電源オフ連動）

（CTRL HDMIスイッチが「MODE1」/「MODE2」の場合に有効）
テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機と接続機器の電源も連動して切れます。本機は**I**/⏻（電源）ランプの色が緑からオレンジ色に変わり、スタンバイ状態になります。

テレビに連動して入力を切り換える（接続機器選択）

（CTRL HDMIスイッチが「MODE1」/「MODE2」の場合に有効）
テレビの画面から本機につないだ接続機器を選ぶと、本機の入力も、機器をつないでいるHDMI入力に切り換わります。

接続機器の音声出力設定について

機器のデジタル音声出力を「ドルビーデジタル」や「DTS」、「AAC」が出力されるように設定してください。他にもマルチチャンネル音声を出力するための設定が必要な場合があります。詳しくは、機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

Sony製機器の設定例*

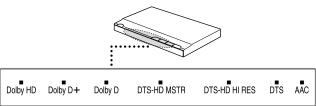
- ブルーレイディスクプレーヤー：「BD音声MIX設定」を「切」、「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」、「DTS」を「DTS」、「AAC」を「AAC」に設定
- ブルーレイディスクレコーダー：「BD音声出力」を「ダイレクト」、「ドルビーデジタル」を「ドルビーデジタル」、「DTS」を「DTS」、「AAC」を「AAC」に設定
- 液晶テレビ：「デジタル音声出力設定」を「オート1」または「オート2」に設定

* 2012年6月現在。

さらに詳細な手順やその他の機器の設定については、ホームページの動画でもご紹介しています。

http://www.sony.jp/headphone/products/MDR-DS7500/

DECODE MODEランプについて

接続機器から入力された音声フォーマットの種類を本機が自動判別して点灯します。機器で再生を始めたら、希望する音声フォーマットになっているかどうか必ず確認してください。希望通りの音声フォーマットにならない場合は、上記「接続機器の音声出力設定について」をご覧になり、機器を設定し直してください。

点灯するランプ	入力された音声フォーマットの種類
Dolby HD	Dolby TrueHD*
Dolby D+	Dolby Digital Plus*
Dolby D	Dolby Digital、Dolby Digital EX
DTS-HD MSTR	DTS-HD Master Audio*
DTS-HD HI RES	DTS-HD High Resolution Audio*
DTS	DTS、DTS-ES、DTS 96/24、DTS Express
AAC	MPEG2-AAC
消灯**	リニアPCM 2ch/5.1ch*/7.1ch*

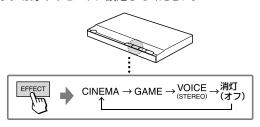
* HDMI入力のみ。

** 音声信号が入力されていない場合もランプは消灯します。また機器の再生状態によってもランプが点灯しない場合があります。「機器を再生するときのご注意」（27ページ）をご覧ください。

音声効果を切り換える

音場モードを切り換える（EFFECTボタン）

プロセッサーのEFFECTボタンを繰り返し押す。

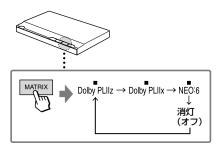
押すたびに、下記のように音場モードが切り換わりプロセッサーのランプが点灯します。お好みのモードに設定してください。

点灯するEFFECTランプ	音場モードと適した入力音源
CINEMA	包まれ感や、各チャンネルの自然なつながり、自然な音質（特に台詞）を重視した設定。 音の良い最新の映画館のような適度な広さをもつサラウンド音場を楽しむことができます。 映画に適しています。
GAME	くっきりとした音像定位や、明確な方向感の再現を重視した設定。 マルチチャンネルサラウンドのゲームなどで臨場感あふれるプレイを楽しむことができます。 ゲーム（特にマルチチャンネル音源）に適しています。
VOICE (STEREO)	話し言葉の聞き取りやすさを重視した設定。 CINEMAやGAMEのバーチャルサラウンドとは異なり、通常のステレオ音声です。 ニュース番組などに適しています。
消灯（オフ）	通常のヘッドホン再生。

ご注意

入力された音声信号によっては、音場モードによって再生音量の違いが生じることがあります。

マトリクスデコーダーを切り換える（MATRIXボタン）

音場モードが「CINEMA」または「GAME」のときに、プロセッサーのMATRIXボタンを繰り返し押す。

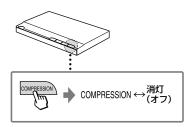
押すたびに、下記の順でマトリクスデコーダーが切り換わりプロセッサーのランプが点灯します。お好みのモードに設定してください。

ご注意

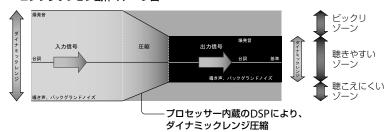
入力されている音声フォーマットの種類によって、選べないマトリクスデコーダーがあります。

点灯するMATRIXランプ	音声処理の種類と効果
Dolby PLIIz	ドルビープロロジックIIzの音声処理を行います。2ch、5.1chまたは7.1chの入力音声を、フロントハイチャンネル（L/R）を含む7.1chサラウンドで再生します。
Dolby PLIIx	ドルビープロロジックIIxの音声処理を行います。2chまたは5.1chの入力音声を、サラウンドバックチャンネル（L/R）を含む7.1chサラウンドで再生します。
NEO: 6	DTS NEO:6の音声処理を行います。2chの入力音声を、サラウンドバックチャンネル（L/R）を含む7.1chサラウンドで再生します。
消灯（オフ ）	マトリクスデコーダーは動作しません。

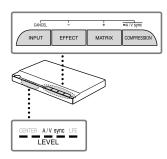
ダイナミックレンジの広さを切り換える（COMPRESSIONボタン）

プロセッサーのCOMPRESSIONボタンを押す。

押すたびにオン／オフが切り換わります。

COMPRESSIONランプの状態	再生音の効果
点灯（オン）	EFFECT機能で選んだ音場モード（消灯時を含む）において、爆発音のような大きな音を小さく、会話などの小さな音を大きくすることにより全体的に聞きやすくします。 映画やクラシック音楽など、ダイナミックレンジの広い音声信号に対して効果的です。
消灯（オフ）	EFFECT機能で選んだ音場モードになります。

コンプレッション動作イメージ図

便利な機能

映像と音声のずれを調節する（A/V sync設定）

映像が音声よりも遅れている場合、映像に合うように音声を調整できます。

1 **プロセッサーのCOMPRESSIONボタンを3秒以上押す。**

A/V syncランプが点滅します。

2 **＋ボタンまたは－ボタン、CANCELボタンを押して調整する。**

＋ボタン（MATRIXボタン）

押すたびに、音声出力の遅延量が増加します。

－ボタン（EFFECTボタン）

押すたびに、音声出力の遅延量が減少します。

CANCELボタン（INPUTボタン）

調整前の遅延量に戻します。

3 **COMPRESSIONボタンを押す。**

表示とレベルの目安

0（遅延なし）から30段階で、遅延量を調整できます。1段階で約1/100秒の遅延量が発生します。

▭ ▭ ▭ ▭ ▭：0（遅延なし、初期値）
▬ ▭ ▭ ▭ ▭：1 ～ 6
▬ ▬ ▭ ▭ ▭：7 ～ 12
▬ ▬ ▬ ▭ ▭：13 ～ 18
▬ ▬ ▬ ▬ ▭：19 ～ 24
▬ ▬ ▬ ▬ ▬：25 ～ 30

ヘッドホンから操作する

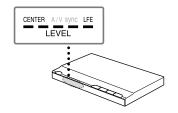
センターレベル／サブウーファーレベル調整

音場モードが「CINEMA」「GAME」のときのみ有効です。

CENTER LEVELボタン

映画のセリフやスポーツ番組の解説などの音量を調節したいときに押してください。押すごとに音量レベルが変わります。プロセッサーのCENTER / LEVELランプがレベルを表示します。

LFE LEVELボタン

サブウーファーチャンネルの音量を調節したいときに押してください。押すごとに音量レベルが変わります。プロセッサーのLFE / LEVELランプがレベルを表示します。

プロセッサー操作

プロセッサーのボタンと同じはたらきです。

PROCESSOR POWERボタン

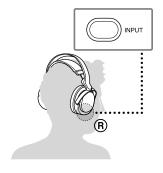
プロセッサーの電源を入／スタンバイします。プロセッサーを一時的に使わないときなどに便利です。

EFFECTボタン

音場モードを切り換えます（33ページ）。

（次のページへつづく）

INPUTボタン

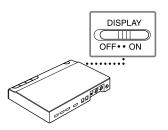
本機の入力を切り換えます（26ページ）。

プロセッサーの文字表示を消す（DISPLAYスイッチ）

プロセッサーのDISPLAYスイッチを切り換える。

ON

プロセッサーの電源が入っているときは、前面のランプと文字表示が点灯します。

OFF

電源以外のランプ表示が消灯して、本機を操作したときのみプロセッサー前面のランプと文字表示が3秒間点灯します。

ヘッドホンからビープ音が聞こえるときは

プロセッサーの電源が入っていないか、電波の届く範囲から離れてヘッドホンの受信状態が悪くなると「ピッピッピッ…」というビープ音が聞こえます。ビープ音が聞こえたらプロセッサーの電源を入れるか、プロセッサーに近づいて電波の届く範囲でお使いください。
プロセッサーに電源が入っていて、プロセッサーに近づいてもビープ音が止まらない場合は、2.4 GHz帯の無線周波数を使用する無線機器や電子レンジから発生する電磁波などの影響を受けている可能性が考えられます。以下の対応方法をお試しください。

- 本システムの周波数チャンネルの設定（25ページ）を「MANUAL」にしてお使いのときは、RF CHANNEL 1/2/3スイッチで影響の少ないチャンネルに切り換えるか、RF CHANNEL AUTO/MANUALスイッチを「AUTO」に切り換える。
- プロセッサーの位置を変える。
- 2.4 GHz帯の無線周波数を使用する無線機器や電子レンジなど、影響を与えている機器の位置を変える。

電波の届く範囲について

プロセッサーからの電波が届く範囲は、最大で約30 mです。
ご使用中に電波の届く範囲から離れたり、電波の状態が悪くなったりすると、音が途切れることがあります。

ご注意

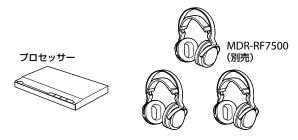
- このシステムは2.4 GHz帯の周波数を使用しているため、障害物で電波がさえぎられた場合は音がとぎれることがあります。この現象は電波の特性によるもので、故障ではありません。
- プロセッサーの位置やお使いになる場所の状況により聞こえかたが異なります。なるべく聞こえやすい位置でお使いになることをおすすめします。
- 他の2.4 GHz帯の周波数を使用する無線機器や電子レンジなどを併用すると音声が途切れることがあります。

音の特性について

- 音楽CDのように映像を伴わないソースの場合、音の定位がわかりにくいことがあります。
- 本システムは人間の平均的なHRTF*（頭部伝達関数）をシミュレートしていますが、HRTFには個人差があるため効果の感じかたは人により異なる場合があります。

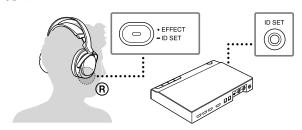
* Head Related Transfer Functionの略です。

ヘッドホンを増設して楽しむ

本システムでは、別売りの専用ワイヤレスヘッドホン（MDR-RF7500）を増設することで、ワイヤレスの音声を複数の人で同時に楽しむことができます。
受信エリア内であれば、ワイヤレスヘッドホンを複数台使用できます。

ご注意

本システムは、独自の2.4 GHzデジタル伝送方式を採用しているため、専用ワイヤレスヘッドホン以外は使用できません。

ヘッドホンを増設するときは

プロセッサーには固有のIDが設定されています。別売りの専用ワイヤレスヘッドホン（MDR-RF7500）を増設する場合は、プロセッサーのIDを増設するヘッドホンに登録する必要があります。
登録にはプロセッサー／ヘッドホンそれぞれのID SETボタンを使います。
詳しくは、別売りの専用ワイヤレスヘッドホン（MDR-RF7500）に付属の取扱説明書をご覧ください。

イヤーパッドを交換する

イヤーパッドは消耗品です。汚れたり破損した場合は、下記の手順を参照してイヤーパッドを交換してください。このイヤーパッドは市販されていませんので、ソニーの相談窓口、またはお買い上げ店にご相談ください。

1 古くなったイヤーパッドをはずす。

2 イヤーパッドをヘッドホンの外周に合わせるようにはめ込む。

本機を廃棄する

Li-ion

機器に内蔵されている充電式電池はリサイクルできます。この充電式電池の取りはずしはお客様自身では行わず、「使い方相談窓口」にご相談ください。（「使い方相談窓口」の連絡先は裏表紙に記載されています。）

故障かな？と思ったら

修理にお出しになる前に、もう一度点検してください。それでも正確に動作しないときは、お買い上げ店または、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。
また、下記のホームページでも、機器との接続方法や音声出力の設定などについての詳しい情報を動画などでご紹介しています。
http://www.sony.jp/headphone/products/MDR-DS7500/

症状	原因と対応のしかた
音が出ない	➡ プロセッサーとAV機器の接続を確認する。 ➡ デジタル機器の光デジタル出力端子とプロセッサーのOPT OUT（THROUGH）端子をつないでいる。 • プロセッサーのOPT IN端子につなぎ直す。 ➡ INPUTボタンで「OPT」を選択している場合は、つないだ機器の光デジタル出力設定が「OFF」や「切」になっていないか確認する。 ➡ プロセッサーにつないだAV機器の電源を入れ、再生を始める。 ➡ プロセッサーの電源を入れる。 ➡ INPUTボタンで、音声を聞きたい機器を正しく選んでいるか確認する。 ➡ プロセッサーのLINE IN (L/R)端子にAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。 ➡ ヘッドホンを頭の上から垂直にかけ直す。 ➡ ヘッドホンの音量を上げる。 ➡ ヘッドホンの充電式電池が消耗しているので充電をする。充電をしてもヘッドホンのPOWERランプが点灯しない場合は、お近くのソニーの修理相談窓口にご相談ください。 ➡ 増設したヘッドホンにプロセッサーのIDが設定されていない。 • ヘッドホンにプロセッサーのIDを登録する（40ページ）。 ➡ プロセッサーにつないでいる機器の出力信号のサンプリング周波数を32 kHz/44.1 kHz/48 kHz/88.2 kHz/96 kHzに設定する。
（HDMI端子に機器をつないでいる場合）	➡ 認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルを使用する。 ➡ 著作権保護技術（HDCP）により保護され、デジタル出力が禁止されているコンテンツ（SACDやDVDオーディオディスクなど）を再生している。 • 本機と光デジタル接続ケーブルまたはオーディオ用接続コードで接続するか、テレビやAVアンプでお聞きください。 ➡ 本機に直接音声信号が入力されていない。 • 本機のHDMI入力を経由した接続にするか、HDMIではなくOPT/LINE IN入力にて本機と接続してください。 ➡ CTRL HDMIスイッチが「MODE1」のときに、テレビの“ブラビアリンク”でスピーカー設定をテレビスピーカーに設定している。 • 本機から音を出すには、テレビのスピーカー設定をオーディオシステムに切り換えてください。

（次のページへつづく）

HDMI機器制御関連

症状	原因と対応のしかた
音も映像も出ない	➡ 認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルを使用する。 ➡ テレビからAVアンプ音声に切り換えるときや、テレビで音声出力時にヘッドホンをかけたときに、少しの間、黒画、無音になることは故障ではありません。
本機でテレビの音声が聞こえない	➡ 接続例1の方法でつないでいる場合 • テレビがARC対応の場合は、プロセッサーのCTRL HDMIスイッチを「MODE1」に切り換えて、INPUTボタンで「TV」を選んでください。それからテレビのHDMI機器制御およびARC設定をオン(入)にしてください。 • テレビがARCに対応していない場合は、プロセッサーとテレビをつないでいる光デジタル接続ケーブル、またはオーディオ用接続コードの接続を確認してください。また、テレビの音声出力設定を確認してください。光デジタル接続ケーブルでつないでいる場合は、設定を変えるとより快適に使えます(「OPT入力でテレビ音声を楽しむための便利な機能」30ページ)。 ➡ 接続例2または3の方法でつないでいる場合 • プロセッサーとテレビをつないでいる光デジタル接続ケーブル、またはオーディオ用接続コードの接続を確認してください。また、テレビの音声出力設定を確認してください。光デジタル接続ケーブルでつないでいる場合は、設定を変えるとより快適に使えます(「OPT入力でテレビ音声を楽しむための便利な機能」30ページ)。
プロセッサーのHDMI出力端子につないだテレビまたはAVアンプから音が出ない	➡ ヘッドホンから音が出ているときはHDMI OUTから音声信号が出力されないため、テレビまたはAVアンプから音を出したい場合は、本機をスタンバイにする。
AVアンプにつないだ機器の音声が本機で聞こえない	➡ 接続例2の方法でつないでいる場合、AVアンプにつないだ機器の音声はAVアンプまたはテレビでのみ聞くことができます。本機で聞くには、光デジタル接続ケーブル、またはオーディオ用接続コードで機器と本機をつないでください。
CTRL HDMIスイッチは「MODE1」だが、テレビからヘッドホンの音量制御ができない	➡ 本機はテレビのリモコンからの音量調整には対応しておりません。ヘッドホンの右側にあるVOLつまみで音量を調整してください。
HDMI機器制御(“ブラビアリンク”)が使えない	➡ AVアンプを併用していなければ、CTRL HDMIスイッチを「MODE1」にする。本機のCTRL HDMIスイッチが「OFF」の場合はHDMI機器制御が動作しません(13ページ)。また「MODE2」の場合はHDMI機器制御が一部制限されます(13、31ページ)。

症状	原因と対応のしかた
テレビの電源を入れても、本機の電源が入らない	➡ CTRL HDMIスイッチが「MODE1」になっていない。 ➡ テレビのスピーカー設定を確認してください。本機の電源はテレビのスピーカー設定に連動します。前回テレビの電源を切ったときに、テレビのスピーカーから音声が出ていた場合、テレビの電源を入れただけでは本機の電源は入りません。
電源オフ連動機能が働かない	➡ テレビの電源を切ると接続機器の電源が自動的に切れるように、テレビの設定を変更する。詳しくは、お使いのテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
テレビの電源を切ると、本機の電源が切れる	➡ CTRL HDMIスイッチが「MODE1」または「MODE2」に設定されているときは、電源オフ連動機能が働きます。テレビの電源を切ると本機のI/⏻(電源)ランプの色が緑からオレンジ色に変わり、スタンバイ状態になります。
HDMI機器制御がうまく働かない	➡ HDMI接続を確認する(13ページ)。 ➡ テレビのHDMI機器制御の設定を行う。詳しくは、お使いのテレビに付属の取扱説明書をご覧ください。 ➡ 接続機器が"ブラビアリンク"に対応していることを確認する。 ➡ 接続機器のHDMI機器制御設定を確認する。詳しくは、お使いの機器に付属の取扱説明書をご覧ください。 ➡ 本機のHDMI機器制御設定が正しくない。 • 本機の他にAVアンプをつないでいませんか? HDMI機器制御では、AVアンプとして動作する機器が1台しか接続できません。本機のほかにAVアンプを接続する場合は、プロセッサーのCTRL HDMIスイッチを「MODE2」にしてお使いください。 ➡ HDMI機器制御の設定が変更されていない。 • CTRL HDMIスイッチを切り換える前にACパワーアダプターをつなぐと、スイッチの切り換えは反映されません。ACパワーアダプターを抜いて5秒ほど待ち、CTRL HDMIスイッチを切り換えてから、もう一度ACパワーアダプターをつないでください。

(次のページへつづく)

一般

症状	原因と対応のしかた
音がひずむ、とぎれとぎれになる（同時にノイズが出る場合もある）	➡ ヘッドホンの充電式電池が消耗しているので充電をする。充電をしてもヘッドホンのPOWERランプが点灯しない場合は、お近くのソニーの修理相談窓口にご相談ください。 ➡ プロセッサーとヘッドホンの周辺に2.4 GHz帯の周波数を使用する無線や電子レンジなどの機器がないか確認する。 ➡ プロセッサーの位置を変える。 ➡ INPUTボタンで「ANALOG」を選択したときに症状が出る場合は、プロセッサーのATTスイッチを「–8dB」に切り換える。 ➡ プロセッサーのLINE IN（L/R）端子にAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を下げる。 ➡ 本システムの周波数チャンネルの設定を「AUTO」に設定してお使いのときは、自動的にチャンネルが切り換わったときに音が途切れることがありますが、故障ではありません。 ➡ プロセッサーにつないでいる機器の出力信号のサンプリング周波数を32 kHz/44.1 kHz/48 kHz/88.2 kHz/96 kHzに設定する。
音が小さい	➡ INPUTボタンで「ANALOG」を選択したときに症状が出る場合は、プロセッサーのATTスイッチを「0dB」に切り換える。 ➡ プロセッサーのLINE IN（L/R）端子にAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。 ➡ ヘッドホンの音量を上げる。
雑音が多い	➡ プロセッサーとヘッドホンの周辺に2.4 GHz帯の周波数を使用する無線や電子レンジなどの機器がないか確認する。 ➡ プロセッサーのLINE IN（L/R）端子にAV機器のヘッドホン端子をつないだときは、つないだ機器の音量を上げる。 ➡ ヘッドホンの充電式電池が消耗しているので充電をする。充電をしてもヘッドホンのPOWERランプが点灯しない場合は、お近くのソニーの修理相談窓口にご相談ください。
サラウンド効果が得られない	➡ 音場モードを「CINEMA」または「GAME」に切り換える（33ページ）。 ➡ 再生中の音声がマルチチャンネルの信号になっていない。 • テレビやHDMI機器の音声出力設定によっては、マルチチャンネル出力を2ch信号などにダウンミックスする設定になっている場合があります。その場合は、マルチチャンネル音声を出力するように機器の設定を変更してください。
DECODE MODEランプが点灯しない	➡ 入力している音声フォーマットがリニアPCM 2ch/5.1ch/7.1chである。 ➡ BD/DVD機器（ゲーム機を含む）の音声出力の設定が「PCM」になっている。 • 再生する前にお使いのBD/DVD機器の取扱説明書をご覧になり、機器の音声がマルチチャンネル音声フォーマット（Dolby Digital、DTSなど）で出力されるように設定してください（32ページ）。 ➡ HDMI入力のみに対応している音声フォーマットがあります（32ページ）。これらの音声を聞く場合は、HDMIケーブルでつないでください。

症状	原因と対応のしかた
MATRIXランプが点灯しない	➡ プロセッサーの音場モードが「CINEMA」または「GAME」になっていない。 ➡ 入力されている音声フォーマットの種類によって、選択できないマトリクスデコーダーがあります（34ページ）。
充電できない、CHG（充電）ランプが点滅する	➡ ヘッドホンとACパワーアダプター、電源コンセントの接続を確認する。 ➡ 充電式電池に劣化などの異常がある。 • お買い上げ店またはお近くのソニーの修理相談窓口にご相談ください。 ➡ 5℃〜35℃の環境で充電していない。
本機のOPT OUT（THROUGH）端子から信号が出力されない	➡ プロセッサーに電源がつながれていない。 • プロセッサーに電源をつないでください。 ➡ OPT IN端子につながれた光デジタル機器が再生されていない。 • つないだ機器を再生してください。
OPT入力時、二重音声の選択ができない。（MAIN、SUBの音声が同時に聞こえる）	➡ LINE IN（L/R）端子にアナログ音声出力をつないで、つないだ機器の方で聞きたい音を選んでください。 ➡ テレビなどの接続機器側で設定できる場合があります。接続機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
警告音が鳴る「ピッピッピッ…」	➡ ヘッドホンがプロセッサーからの電波を受信できない。 • 電波の届く範囲に移動する。 • プロセッサーの電源を入れる。 • プロセッサーとACパワーアダプター、電源コンセントの接続を確認する。 • 周波数チャンネルの設定を「MANUAL」にしてお使いのときは、RF CHANNEL 1/2/3スイッチで影響の少ないチャンネルに切り換えるか、RF CHANNEL AUTO/MANUALスイッチを「AUTO」に切り換える（25ページ）。 • プロセッサーとヘッドホンの周辺に2.4 GHz帯の周波数を使用する無線や電子レンジなどの機器がないか確認する。 • プロセッサーの位置を変える。
プロセッサーのIDをヘッドホンに登録できない	➡ プロセッサーとヘッドホンをできるだけ近づける。 ➡ プロセッサーの位置を変える。 ➡ プロセッサーとヘッドホンの周辺に2.4GHz帯の周波数を使用する無線や電子レンジなどの機器がないか確認する。 ➡ プロセッサーを2台お持ちの場合は、ID登録をしないほうのプロセッサーの電源を切る。I/⏻（電源）スイッチを3秒間押すと電源が切れます。

使用上のご注意

取り扱いについて

- プロセッサー、ヘッドホンを落としたりぶつけたりなど強いショックを与えないでください。故障の原因となります。
- プロセッサー、ヘッドホンを分解したり、開けたりしないでください。

設置について

次のような場所には置かないでください。
– 直射日光があたる場所や暖房器具の近くなど温度が非常に高い所。
– ほこりの多い所。
– ぐらついた台の上や傾いた所。
– 振動の多い所。
– 風呂場など、湿気の多い所。

付属のACパワーアダプターについて

- 必ず付属のACパワーアダプター(極性統一形プラグ･JEITA規格)をお使いください。プラグの極性など異なる製品を使うと、故障の原因になります。

極性統一形プラグ

- 電圧やプラグ極性が同じACパワーアダプターでも、電流容量その他の要因で故障の原因になります。必ず付属のACパワーアダプターをご使用ください。
- ACパワーアダプターは容易に手が届くような電源コンセントに接続し、異常が生じた場合は速やかにコンセントから抜いてください。
- ACパワーアダプターをご使用時は、以下の点にご注意ください。
  – ACパワーアダプターを本棚や組み込み式キャビネットなどの狭い場所に設置しないでください。
  – 火災や感電の危険をさけるために、ACパワーアダプターを水のかかる場所や湿気のある場所では使用しないでください。また、ACパワーアダプターの上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。
- 長い間使わないときは、ACパワーアダプターをコンセントから抜いてください。コンセントから抜くときは、コードを引っぱらずに必ずACパワーアダプター本体をつかんで抜いてください。

ヘッドホンについて

まわりの人のことを考えて

ヘッドホンは、音量を上げすぎると音が外にもれます。音量を上げすぎて、まわりの人の迷惑にならないように気をつけましょう。
雑音の多いところでは音量を上げてしまいがちですが、ヘッドホンで聞くときはいつも、呼びかけられて返事ができるくらいの音量を目安にしてください。

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。
ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。
- 本機を分解/改造すること
- 本機に貼ってある証明ラベルをはがすこと

周波数について

本機は2.4 GHz帯の2.400 GHzから2.4835 GHzまで使用できますが、他の無線機器も同じ周波数を使っていることがあります。他の無線機器との電波干渉を防止するため、下記事項に注意してご使用ください。

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業･科学･医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局､アマチュア無線局等（以下「他の無線局」と略す）が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止（電波の発射を停止）してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS変調方式を採用し、与干渉距離は40 mです。

お手入れのしかた

機器の外装の汚れは、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、うすい中性洗剤溶液でしめらせた布で拭いてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げをいためるので使わないでください。

異常や不具合が起きたら

- 万一異常や不具合が起きたり、異物が中に入ったときは、すぐに電源を切り、お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口にご相談ください。
- お買い上げ店またはソニーの修理相談窓口にお持ちになる際は、必ずヘッドホン、プロセッサー、ACパワーアダプターを一緒にお持ちください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口、またはお買い上げ店にご相談ください。修理をご依頼の際は、付属のACパワーアダプターを本体と一緒にお持ちください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではデジタルサラウンドヘッドホンシステムの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後6年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

主な仕様

プロセッサー　DP-RF7500

デコーダー機能

Dolby TrueHD
Dolby Digital Plus
Dolby Digital
Dolby Pro Logic Ⅱz*
Dolby Pro Logic Ⅱx
DTS-HD Master Audio
DTS-HD High Resolution Audio
DTS 96/24
DTS-ES
DTS
DTS Neo:6
MPEG-2 AAC
リニアPCM 5.1ch/7.1ch

* 本製品のDolby Pro Logic Ⅱz機能は、ヘッドホンからのバーチャル再生にのみ対応しています。

バーチャルサラウンド機能

OFF
CINEMA
GAME
VOICE (STEREO)

コンプレッション機能

OFF
ON

センター／LFEレベル調整機能

5段階

変調方式　DSSS

搬送波周波数

CH1：2.412 GHz
CH2：2.438 GHz
CH3：2.464 GHz

到達距離　見通し最長約30 m

伝送周波数帯域

12 Hz～24,000 Hz（デジタル入力時、サンプリング周波数48 kHz時）

ひずみ率　1 %以下（1 kHz）

入力端子　HDMI（HDMI®コネクター）×3

光（角型）×1

ステレオピンジャック×1

出力端子　HDMI（HDMI®コネクター）×1

光（角型）×1

電源　DC 12 V（付属のACパワーアダプターを使用）

最大外形寸法

約252×36×159 mm（幅／高さ／奥行き）

質量　約480 g

HDMI部

コネクター　HDMI®コネクター

ビデオ入出力

HDMI IN 1/2/3, HDMI OUT：

640×480p、59.94/60 Hz

720×480p、59.94/60 Hz

1280×720p、59.94/60 Hz

1920×1080i、59.94/60 Hz

1920×1080p、59.94/60 Hz

720×576p、50 Hz

1280×720p、50 Hz

1920×1080i、50 Hz

1920×1080p、50 Hz

1280×720p、29.97/30 Hz

1920×1080p、29.97/30 Hz

1280×720p、23.98/24 Hz

1920×1080p、23.98/24 Hz

Deep Color：30bit/36bit

ビデオ入出力（3D）

1280×720p、59.94/60 Hz Frame packing,Side-by-Side(Half),Over-Under(Top-and-Bottom)

1920×1080i 59.94/60Hz Frame packing, Side-by-Side(Half), Over-Under(Top-and-Bottom)

1920×1080p 59.94/60Hz Side-by-Side(Half), Over-Under(Top-and-Bottom)

1280×720p 50Hz Frame packing, Side-by-Side(Half), Over-Under(Top-and-Bottom)

1920×1080i 50Hz Frame packing, Side-by-Side(Half), Over-Under(Top-and-Bottom)

1920×1080p 50Hz Side-by-Side(Half), Over-Under(Top-and-Bottom)

1920×1080p 23.98/24Hz Frame packing, Side-by-Side(Half), Over-Under(Top-and-Bottom)

1920×1080p 29.97/30Hz Frame packing, Side-by-Side(Half), Over-Under(Top-and-Bottom)

（次のページへつづく）

1280×720p 23.98/24 Hz Frame packing, Side-by-Side(Half), Over-Under(Top-and-Bottom)

1280 × 720p 29.97/30 Hz Frame packing, Side-by-Side(Half), Over-Under(Top-and-Bottom)

Deep Color：30bit/36bit

ヘッドホン　MDR-RF7500

再生周波数帯域
5 Hz〜25,000 Hz

電源　内蔵リチウムイオン充電式電池

質量　約325 g

同梱品

プロセッサー（1）

ヘッドホン（1）

ACパワーアダプター（ヘッドホン用、6 V）（1）
ACパワーアダプター（プロセッサー用、12 V）（1）
光デジタル接続ケーブル（光角型プラグ ⟷ 光角型プラグ、1.5 m）（1）
スタートアップガイド（1）
リファレンスガイド（本書）（1）
保証書（1）
その他印刷物一式

推奨アクセサリー

HDMIケーブル
DLC-HE7HF(0.7m)、
DLC-HE10HF（1.0m）、
DLC-HE15HF（1.5m）、
DLC-HE20HF（2.0m）、
DLC- HE30HF（3.0m）

オーディオ用接続コード
RK-C310（1.0 m）、
RK-C315（1.5 m）、
RK-C320（2.0 m）、
RK-C330（3.0 m）（ピンプラグ×2 ⟷ ピンプラグ×2）、
RK-G129（1.5 m）（ステレオミニプラグ ⟷ ピンプラグ×2）

光デジタルセレクター
SB-RX100P

光デジタル接続ケーブル
POC-5A（0.5 m）、
POC-10A（1.0 m）、
POC-15A（1.5 m）、
POC-20A（2.0 m）、
POC-30A（3.0 m）、
POC-5DSA（0.5 m）、
POC-10DSA（1.0 m）、
POC-20DSA（2.0 m）、
POC-30DSA（3.0 m）
（光角型プラグ ⟷ 光角型プラグ）、
POC-5AB（0.5 m）、
POC-10AB（1.0 m）、
POC-15AB（1.5 m）、
POC-20AB（2.0 m）、
POC-30AB（3.0 m）
（光角型プラグ ⟷ 光ミニプラグ）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

ブラビアリンクガイドページ
ブラビアリンクの接続や対応機器などに関する情報は、下記ホームページで確認できます。
http://www.sony.jp/bravialink/

製品登録のおすすめ
ソニーは、製品をご購入いただいたお客様のサポートの充実を図るため、製品登録をお願いしております。詳しくはウェブ上の案内をご覧ください。

パソコンから
http://www.sony.co.jp/avp-regi/

携帯電話から
2次元コード対応のカメラつき携帯電話の読み取り機能でご利用ください。
http://reg.msc.m.sony.jp/avp/

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.jp/support/**

使い方相談窓口
フリーダイヤル…………… **0120-333-020**
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥ **0466-31-2511**

修理相談窓口
フリーダイヤル…………… **0120-222-330**
携帯電話・PHS・一部のIP電話‥ **0466-31-2531**
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX (共通) 0120-333-389

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に
「309」+「#」
を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Malaysia

* 4 2 9 5 9 1 4 0 2 * (1)